



**豚繁殖・呼吸障害症候群  
(PRRS) 被害農場における  
農場主の**行動変容**と  
**支援体制構築**の一事例**

県西家畜保健衛生所

佐藤 朝咲

# 迷走が起きやすい地域特性とPRRSの難しさ

## 農場主主導型

- ・農場主の裁量 大
- ・コンサル契約 少

地域特性

## PRRS

- ・繰り返す被害
- ・対策に正解がない

疾病特性

迷走リスク

ワクチンを  
打ちまくる

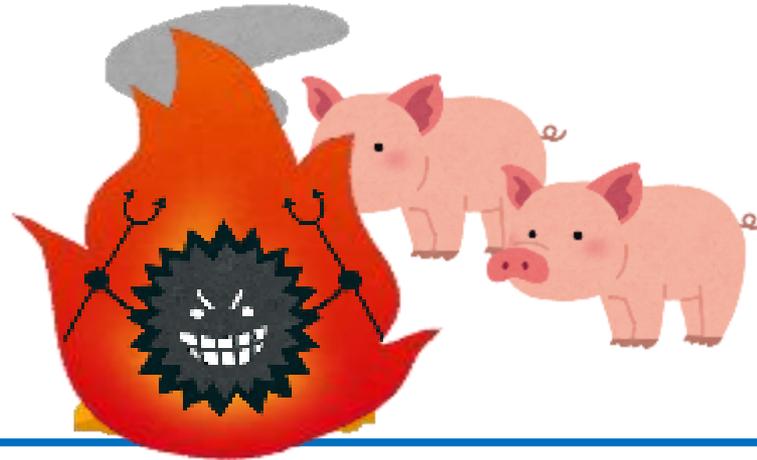
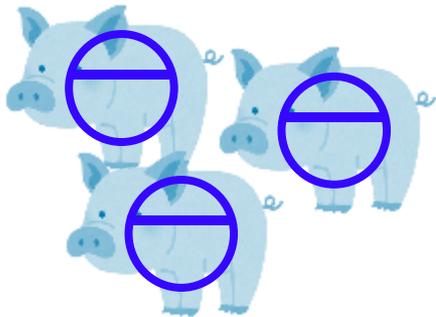
ワクチンを  
打たず淘汰だ

なにが正しいの？



# A農場の背景とリスク

- 母豚300頭規模の一貫経営農場
- 農場主と家族による経営
- 熱心に情報収集
- R2 PRRSクラスターⅢ侵入
- PRRS陰性母豚導入 ➔ **陽性農場**の場合  
PRRS対策において**不利**



子豚舎  
①



隔離舎

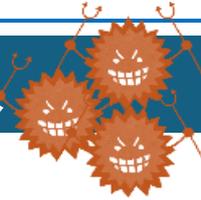


母豚300頭規模の「**農場主主導型経営**」

陰性母豚**導入リスク**

# 支援体制の断絶と孤立の始まり

## R4.3 PRRS**クラスターIV**侵入



- 飼料メーカー・獣医師が検査・支援

獣医師がいるので大丈夫だろう・・・

農場

獣医師

検査

## R4.10 メーカー変更で**支援途切れ**

➡**状況悪化**へ

サーコウイルス  
ワクチン

すぐよくなるよ

体型が悪い



玉石混交の情報

高額サプリメント

抗生剤投与

孤立し、  
改善が見られないまま疲弊

# 死亡増加と判断基準の喪失

子豚舎事故率 (%)



R4.9~事故率急上昇

- 母豚減頭開始
- 廃業を視野

「何をしたいかわからない」のが最もつらかった...

侵入  
すぐ沈静化

半年後  
被害甚大

R5.5 相談  
介入開始

# 相談➡伴走型支援へ

## 相談までの関わり

➤ R4.3 侵入

➤ R4.5 採血

➤ R4.9 立入

被害拡大

➤ R5.5 電話相談

家保での採血や立入  
➡沈静時期

継続的な  
伴走型支援だ！

### 伴走型支援

主役

農場主

アプローチ 共に考える

重視 自己決定

効果 主体性・自走

## 伴走型支援の仕組み

家保

- ✓ 相談窓口
- ✓ 隔月でミーティング



- ・ワクチンメーカー
- ・獣医師

- ✓ 検査協力
- ✓ 事例収集

検査結果  
見える化

選択肢

判断プロセス  
共有

実行・検証

# 受け身からのスタート

家保作成資料

③検査結果まとめ(R5.8.1現在)

繁殖母豚・種豚

- 検査未実施、要検査
- 一部PCR陽性豚がいる可能性が高い

分娩舎(哺乳豚)

- 6月時点で16腹の睪丸検査陰性
- 今後も要検査⇒垂直感染の指標

分娩舎(離乳豚)

- 離乳舎移動群(30日齢)でPCR陽性

## ➤ 導入母豚への免疫付与方法

何使う？

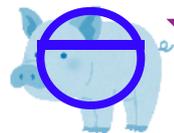
1 生ワクチン

2 不活化ワクチン

3 農場株馴致

やり方は？

隔離舎



生  
ワクチン

生  
ワクチン

PCR陰性

ストール



- 検査の手間
- 定期繰り上げ難しい

判定：去勢睪丸PCR

陰性継続

垂直感染 止

大丈夫

これでいいんだ

成功体験→自分軸

# アイデアが増えていく

## ▶ ピッグフローの見直し

分娩舎：垂直感染の危険  
子豚舎：被害拡大



案：分娩舎と子豚舎を分割できないか？  
産歴で豚を分けられないか？

できないよ

分娩舎 2棟



子豚舎 2棟



分娩舎の洗浄しぶき  
気になる

自分が広げてい  
るのではないか

区画を分ける(ブルーシート)  
⇒部分的にオールアウト可能

分娩舎 2棟



子豚舎 2棟



手間はかかる  
けど

「分娩舎のアウトが効いた」

# 手間はかかるけど・・・

## ➤ バイオセキュリティー



もう二度とごめんだ

消毒は  
洗浄とセットがいい



消毒槽



- ✓ 履き替え
- ✓ 動力噴霧器で洗浄消毒

# 手間 < 防疫

これ、いいかも



- ✓ 立て看板  
購入



最も重要なのは、  
**バイオセキュリティ**を**自農場**にどう落とし込むかだ！

# 受け身から主体的判断へ

## 令和6年以降 農場主作成資料抜粋

少なくとも秋冬に向けてさらなる対策の必要性を感じる

「Remember last year! (去年を忘れるな)」  
PRRS生ワクチン子豚接種を決断 (R6.9)

⇒現状は with PRRSであるが安定している  
状況といえる (R7.5)

⇒PRRSはこれからが本当の闘い  
去年よりよりよい状態を目指す  
候補豚の採血で一発合格、分娩舎で垂直感染  
が出ない、子豚は感染時期を遅らせる  
(R7.9)



自分軸

成功体験

安心



受け身→主体

# 再流行時に見えた、考えて動く力

## 再流行時の対応 (R5.12~R6.1)

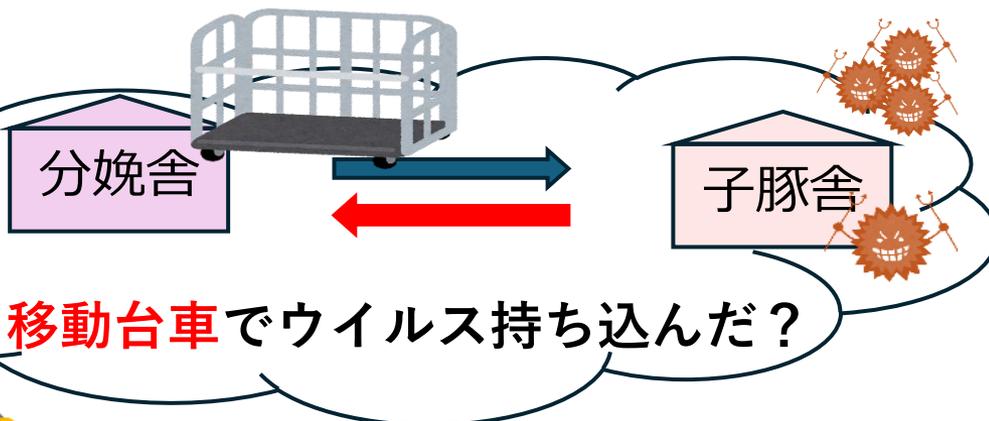
・不安から連絡



またダメかもしれない

・状況整理

・原因を自ら推察



・動線見直しを即時実施



□ 分娩舎専用台車3台準備

□ 分娩舎前を通らない動線

日常作業の穴は、農場主しか気づけない  
家保では見えにくい

# 対策の定着と死亡率の安定

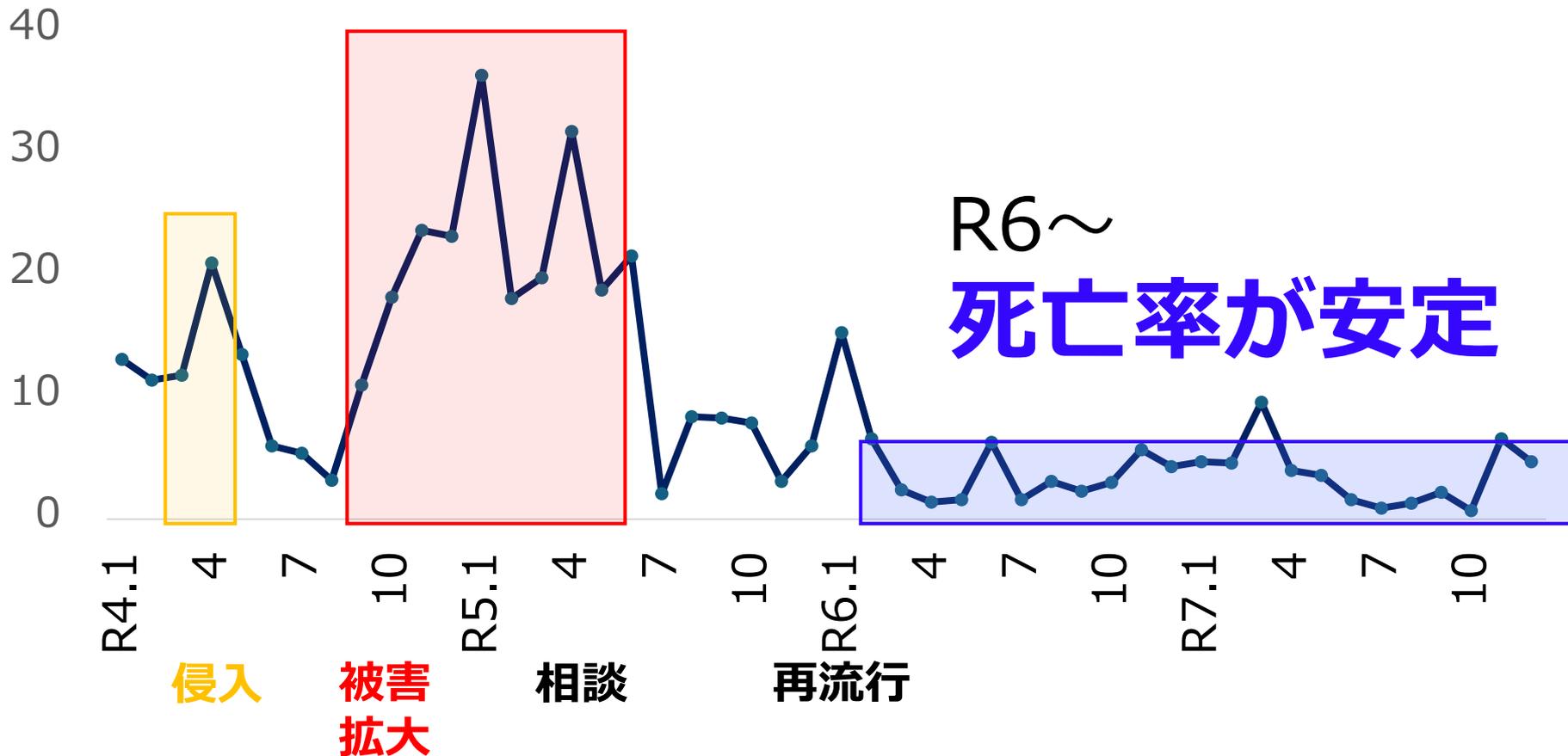
母豚免疫安定化

分娩舎の部分的オールアウト

バイオセキュリティ更なる向上

対策の定着

子豚舎事故率 (%)



# 判断軸を取り戻し、波を乗り越えなす農場

冷静に  
対処できる



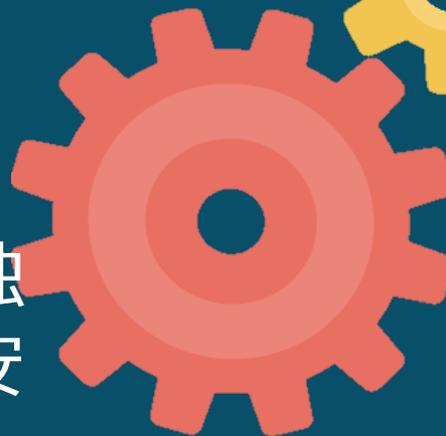
周辺農場の  
アドバイザー



望ましい  
行動



孤独  
不安

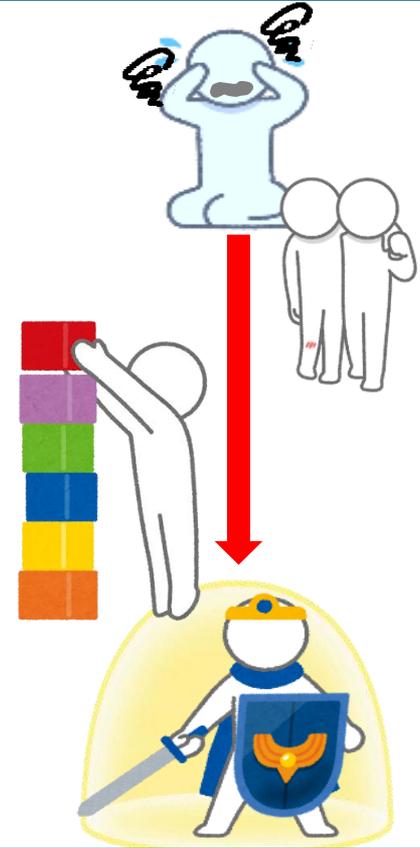


伴走型支援  
安心

# 本事例が示したものの

## 農場主の行動変容：孤立から主体性へ

- PRRS対策 = 正解がない  
情報が多く迷いやすい
- **伴走型支援**  
状況整理・選択肢提示・判断プロセス共有を実施
- 対策の実行と検証 → **成功体験** 積み重ね  
→ **自分軸**
- 再流行時 → 自ら原因を推察・即時改善
- 死亡率安定し、**周辺農場を支える側へ成長**



農場主の「考える力」を引き出す支援

⇒持続的な対策につながる

# 家保も試行錯誤・・・伴走型支援

## 正解がない対策、どう進めるか？

オーエスキー病 ⇒ ワクチン！！ **標準治療**

PED ⇒ 子豚淘汰・分娩舎空に！！

PRRS ⇒ ……まずは母豚の免疫安定化

伴走型支援

**選択肢**と**メリット・デメリット**を示し

**よりよい選択**を考えていく

農場主と共に、情報収集し知識向上

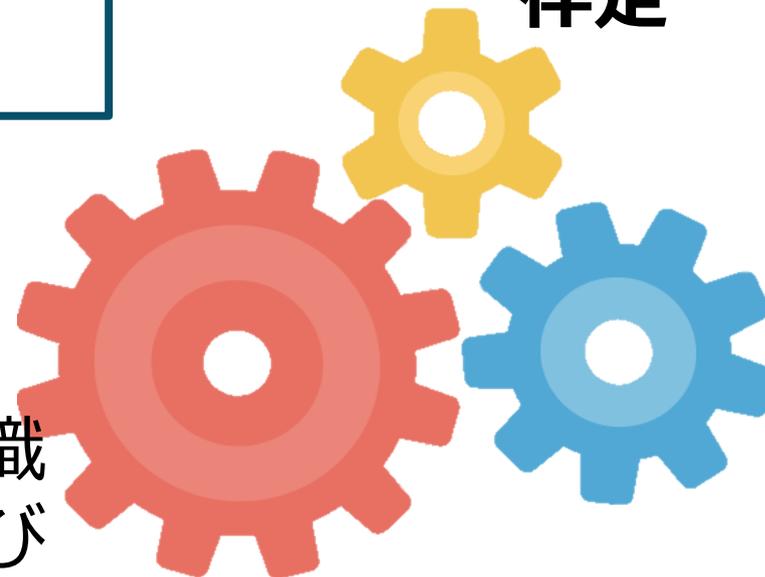
周囲に協力を求め

家保も成長する伴走

知識  
学び

成長しながら  
伴走

周囲  
協力



# 家保に求められる支援のかたち

## 行政は、最後のセーフティネット

「困ったときに一人で抱えなくていい」  
と思える**関係づくり**が重要

異常事態



正解のない疾病対策

⇒SOSを受け止め、共に考え、判断プロセスを支える**伴走型支援**

関係づくりがうまくいかないと、伴走もうまくいかない

正解のない問題に向き合うために  
支援者自身も**学び続けること**

ご清聴ありがとうございました

正解のない疾病対策  
一人で悩まない支援を



**STOP PRRS**